

九州大学病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムは、九州大学病院を責任基幹施設とし、主に福岡市内・福岡市近郊に位置する九州大学病院麻酔科蘇生科の関連病院群で構成されている。

本プログラムの特徴は、豊富で多様な麻酔症例を経験することで麻酔専門医としてのゆるぎない実力を確実に醸成することである。次に、日々進歩している医療現場にあって最新の外科医療に即応できるハイレベルな麻酔専門医を育成することである。そして何より、患者への共感と仲間との協調性と社会人としての寛容性をもった人間性豊かな麻酔専門医を涵養することにある。本プログラムは、一般的な外科手術患者の麻酔管理、種々の合併症を有する患者、小児麻酔や心臓血管外科手術麻酔など高度で専門的な分野、更に、集中治療や救急医療、ペインクリニック、緩和ケアなど麻酔に関連する各分野での幅広い研修を提供する。本プログラム修了後には各専攻医が十分な麻酔科領域および麻酔科関連領域の専門知識と技量、刻々と変わる臨床現場における適切な臨床的判断能力と問題解決能力を備え、安全で質の高い周術期医療を提供でき、国民の健康と福祉の増進に寄与することができる麻酔科専門医に育つことができるようにする。

実施施設は、責任基幹施設である九州大学病院を中心とし、関連研修施設である国立病院機構九州医療センター、福岡市立こども病院、聖マリア病院、済生会福岡総合病院、浜の町病院、九州中央病院、福岡市民病院、福岡山王病院、国立病院機構小倉医療センター、九州大学別府病院、宗像水光会病院、福岡大学病院、千早病院、高木病院、済生会唐津病院、飯塚病院、和白病院、中頭病院から構成される。

責任基幹施設である九州大学病院は、全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大動脈弁置換術）、ロボット手術等の症例数も多く、高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。同時に集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど関連分野での研修もプログラムに含まれており、幅広い研修を行うことができる。

基幹研修施設や関連研修施設もそれぞれに特徴を持っている。例えば、福岡市立こども病院では小児麻酔、とくに先天性心疾患児の麻酔管理の集中的な研修を行うことができる。また、聖マリア病院は小児心臓手術、済生会福岡総合病院は多発外傷などの緊急手術、九州医療センターは成人心臓手術が多いといった特徴を持っている。施設群全体で総数約 50,000 件の症例数があり、各専攻医に十分な研修の機会を提供することができる。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に記されている。本プログラムでは、日本麻酔科学会の研修プログラム整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成するだけでなく、痛みの制御や急性期の呼吸・循環・神経の制御、そして蘇生法に関して理解を深め、治療や管理法に関する幅広い視野を持つことを目的としている。そのため、本プログラム修了後には大学院進学や海外留学などの機会も積極的に提供する。

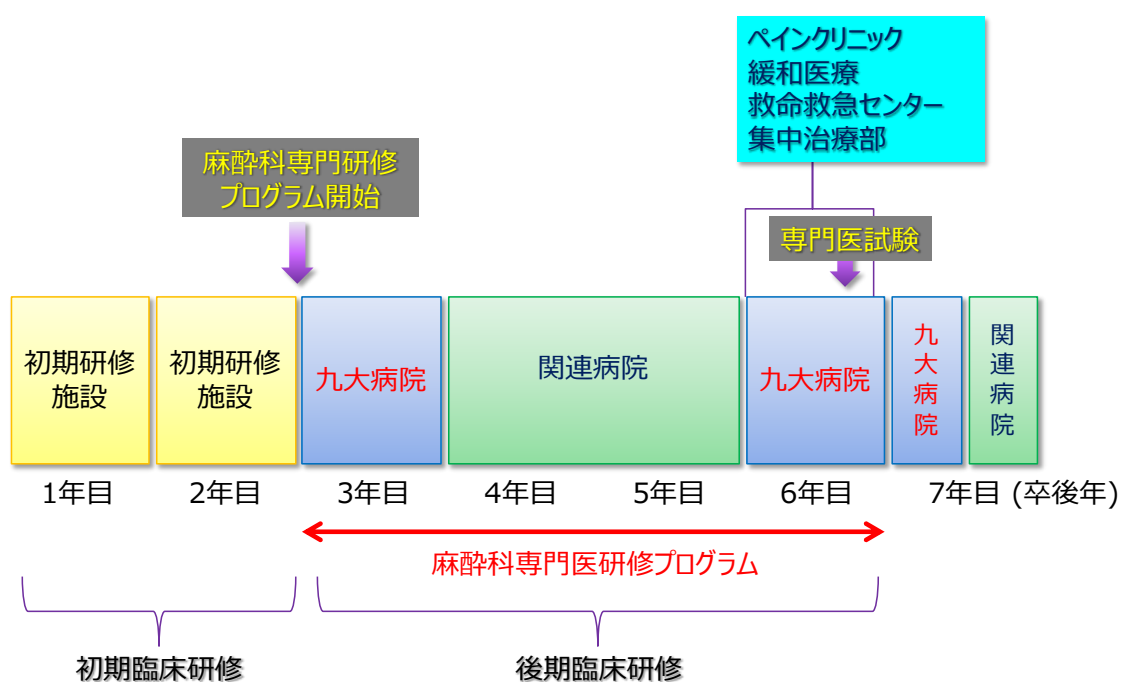
3. 専門研修プログラムの運営方針

- 原則として研修の前半2年間のうち1年間、後半2年間のうち1年間は、責任基幹施設で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮し、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を経験できるよう、ローテーションを構築する。
- 責任基幹施設である九州大学病院での研修では、心臓血管外科手術・移植等特殊な麻酔の研修に加え、集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど、関連分野での研修も行う。
- 小児麻酔、特に先天性心疾患児の麻酔管理の研修のため、主に九州大学病院、福岡市立こども病院、聖マリア病院で研修を行う。
- 研修後半には、手術室運営の経験も積む。
- 女性医師の妊娠・出産・育児などの際には、それぞれの希望に柔軟に対応しつつ

到達目標を達成できるよう研修をサポートする。

- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B）、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C）、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）、地域病院を中心としたローテーション（ローテーション例E, F, G）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。

研修実施計画例



	A (標準)	B (小児)	C (ペイン)	D (集中治療)	E (筑後)	F (大分)	G (宮崎)
初年度 前期	九州大学	九州大学	九州医療 センター	福岡済生会	聖マリア	九州大学	九州大学
初年度 後期	九州大学	九州大学	福岡済生会	聖マリア	聖マリア	九州大学	藤元総合 病院
2年度 前期	九州医療 センター	九州医療セ ンター	九州大学	九州大学	高木病院	福岡済生 会	藤元総合 病院
2年度 後期	福岡済生会	小倉医療 センター	九州大学	九州大学	高木病院	九州大学 (別府)	藤元総合 病院
3年度 前期	九州大学 (別府) / 唐津済生会	聖マリア	福岡山王/ 九州中央	福岡こども	九州大学	九州大学 (別府)	藤元総合 病院
3年度 後期	福岡こども	福岡こども	九州大学 (別府)	九州医療 センター	九州大学	九州医療 センター	福岡済生 会
4年度 前期	九州大学	福岡こども	九州大学	九州大学 (集中治療)	聖マリア	九州医療 センター	九州大学
4年度 後期	聖マリア	九州大学	九州大学 (ペイン)	九州大学 (集中治療)	聖マリア	聖マリア	九州大学

研修実施計画例

週間予定表

九州大学麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室 (関連病院)	休み	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	手術室 (関連病院)	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

専門研修基幹施設

九州大学病院

研修プログラム統括責任者：

山浦 健

専門研修指導医：

東 みどり子（麻酔）

辛島 裕士（麻酔）

神田橋 忠（麻酔）

徳田 賢太郎（麻酔、集中治療、救急）

牧 盾（麻酔、集中治療、救急）

藤吉 哲宏（麻酔、集中治療、救急）

前田 愛子（麻酔、ペインクリニック）

白水 和宏（麻酔、集中治療、救急）

住江 誠（麻酔）

中山 徹三（麻酔）

松下 克之（麻酔）

梅原 薫（麻酔）

大澤 さやか（麻酔、集中治療、救急）

阿部 潔和（麻酔）

中垣 俊明（麻酔）

福德 花菜（麻酔、緩和ケア）

信國 桂子（麻酔）

藤田 愛（麻酔）

木村 真実（麻酔）

専門医：

中山 昌子（麻酔、ペインクリニック）

渡邊 雅嗣（麻酔）

佐々木 翔一（麻酔）

犬塚 愛美（麻酔）

山本 美佐紀（麻酔）

三月田 麻理奈（麻酔）

認定病院番号： 8

特徴：九州大学病院は、全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大動脈弁置換術）、ロボット手術等の症例数も多く、高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。また、集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど、関連分野での幅広い研修を行うことができる。

専門研修連携施設A

国立病院機構 九州医療センター（以下、九州医療センター）

研修プログラム管理者：

甲斐 哲也（麻酔、ペインクリニック）

専門研修指導医：

虫本 新恵（麻酔）

牧園 玲子（麻酔）

小林 祐紀子（麻酔）

吉野 裕子（麻酔）

専門医：

小野 悦子（麻酔）

川久保 紹子（麻酔）

富永 昌周（麻酔）

新原 妙子（麻酔）

認定病院番号： 697

特徴：外科系の全診療科を有し、麻酔科専門医に求められる全ての領域の麻酔を経験することができる。全身麻酔は全静脈麻酔を主体とし、速やかで質の高い覚醒と術後嘔気の少ない良質な麻酔を目指しており、全静脈麻酔を多数経験することができる。術後鎮痛に配慮してエコーガイド下末梢神経ブロックを積極的に施行しており、対象症例も多いため、神経ブロックも多く経験することができる。術後ivPCAを施行する患者も多く、そのコントロールへの関与も可能である。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院

(以下、福岡市立こども病院)

研修実施責任者：

水野 圭一郎 (麻酔、集中治療)

専門研修指導医：

泉 薫 (麻酔、ペインクリニック)

住吉 理絵子 (麻酔)

石川 真理子 (麻酔)

賀来 真里子 (麻酔)

認定病院番号： 205

特徴：サブスペシャリティとしての小児麻酔を月30～50例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸管理の実践的な研修が可能。外科・整形外科・泌尿器科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている。急性痛管理にも力を入れており、硬膜外鎮痛やPCAなどを行っている。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

雪の聖母会 聖マリア病院 (以下、聖マリア病院)

研修実施責任者

藤村直幸 (麻酔・救急・集中治療)

専門研修指導医

吉野 淳 (麻酔)

自見宣郎 (麻酔)

甘蔗真純 (麻酔)

漢那 朝雄 (麻酔・救急・集中治療)

坂井 寿里亜 (麻酔)

新井 千晶 (麻酔)

田中 麻衣 (麻酔)

認定病院番号： 483

特徴：当院の手術室は15室あり手術室の規模としては大きく、年間手術件数は8000件を超えています。41の診療科を標榜しており、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科1科医、

移植外科、小児外科、形成外科など、様々な科の手術に対する麻酔を経験することができます。救命救急センターへは年間10000台を超える救急者の受け入れ実績があり、また総合周産期母子医療センターを併設しているため、緊急手術が必要な重症患者やハイリスク妊婦に対する麻酔管理も行っています。整形外科、呼吸器外科、小児外科手術に対しては、超音波ガイド下神経ブロックを併用し術後鎮痛をはかっており、幅広い研修が可能です。

社会福祉法人恩賜財団済生会 福岡県済生会福岡総合病院（以下、済生会福岡病院）

研修実施責任者：

吉村 速（麻酔）

専門研修指導医：

倉富 忍（麻酔）

田口 祥子（麻酔）

八田 万里子（麻酔）

渡邊 麻美（麻酔）

牛尾 春香（麻酔）

認定病院番号： 1 0 4 3

特徴：済生会福岡総合病院は、福岡市の中心に位置する中規模急性期総合病院である。ICU/CCUが整備されており、難易度の高い術式や循環器などの重症合併症を有する患者の手術症例が多く施行されている。また、第3次救急救命センターを有することから、緊急症例が多く、全手術件数の20%以上が緊急手術で、心臓外科・外科・脳外科・多発外傷等の緊急手術に365日24時間対応している。さらに、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、福岡県災害拠点病院に指定されており、地域の医療の一翼を担っている。

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院（以下 浜の町病院）

研修実施責任者：

池田 水子

専門研修指導医：

藤本 鮎美（麻酔）

竜田 ちひろ（麻醉）
住江 麻衣子（麻醉）
松岡 友香（麻醉）
田邊 光和子（麻醉）
東 晶子（麻醉）

認定病院番号： 2 5 8

特徴：2013年より新病院に移転し、整った環境で診療を行っている。当院では心臓血管外科以外の手術はすべて実施されており、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科、整形外科、泌尿器科、脳外科、形成外科、婦人科、産婦人科と症例は多岐にわたる。手術室は9室（バイオクリーンルーム2室）で運営しており、新病院移転を機に、各種電子記録システムや映像記録支援システム、中央監視システム等最新の設備が拡充された。各手術室映像、生体モニターは麻醉科スタッフルームから常時監視されており、早期に危険を回避してより高度な安全を確保することが可能となっている。婦人科の内視鏡手術が多いことが当院の特徴で、初期研修医は一日に2-3症例の気管挿管等の気道確保手技および全身麻醉管理が経験できる。手術中の気道確保手段として気管挿管だけでなく、上喉頭器具を使用することも多く、また気管挿管デバイスも各種使用しながら気道確保の指導を行っている。研修期間終了までに、病棟/外来での気道確保ができるようになることを目標としている。麻醉科では毎朝症例カンファレンスを行い、全身状態に問題がある患者の術前評価、麻醉管理法をプレゼンし、各症例に対する情報を共有し理解を深めている。九州大学病院麻醉科医局主催の月例カンファ等の勉強会、研修医説明会への参加、および麻醉科学会への参加も奨励している。

公立学校共済組合 九州中央病院 （以下、九州中央病院）

研修実施責任者：

松角 貴子 （麻醉）

専門研修指導医：

春田 怜子 （麻醉）

杉山 沙織 （麻醉）

漢那 悦子（麻醉）

専門医：

村上 雅子（麻醉、周術期管理）

認定病院番号： 50

特徴：九州中央病院の2019年度の年間麻酔科管理症例数は2787件で、腹部・胸部・血管・乳腺外科、脳外科、耳鼻科、皮膚科、眼科、形成外科の手術麻酔を行う中で、硬膜外麻酔・脊椎麻酔・末梢神経ブロック症例を数多く経験できる。特にエコーガイド下神経ブロックには積極的に取り組んでいる。術中管理だけでなく、PCEA回診を行う事により術後疼痛管理についても学べる様に指導している。また、ペインクリニック診療（担当：本山 嘉正）も行なっており、ペインクリニックを学ぶ機会も得られる。

医療法人社団高邦会 福岡山王病院 （以下、福岡山王病院）

研修実施責任者：

野元 保孝（麻酔）

専門研修指導医：

八島 典子（麻酔）

村上 祐子（麻酔）

宮脇 順子（麻酔）

稲井 聡子（麻酔）

谷村 典弥（麻酔）

大杉 枝里子（麻酔）

坂本 聖子（麻酔）

梅村 理恵（麻酔）

認定病院番号： 1465

特徴：当院は、福岡市早良区百道浜に位置し、199床の病床をもち、全室個室で、ハートリズムセンター、パースセンター、リプロダクションセンター、関節外科センターなど先進的な医療と、質の高い医療、特徴ある医療を国内、国外の患者さんに提供している。麻酔は、婦人科手術を中心に、脳外科手術、整形外科手術、それに帝王切開術を多く経験できる。また、特徴的なところでは無痛分娩を多く手掛けており、産科医療に麻酔科医が積極的に参加している。

医療法人社団高邦会 高木病院 (以下, 高木病院)

研修実施責任者:

高松 千洋 (麻醉)

専門研修指導医:

外 須美夫 (麻醉)

柴山 愛子 (麻醉)

専門医:

杉部 清佳 (麻醉)

小野 雄介 (麻醉)

認定病院番号: 1632

特徴:

福岡県南部の大川市に所在する地域医療の中核を担う総合病院であり、緊急手術も多い。麻醉科専門研修で特殊麻醉とされる開心術・開頭術・胸部外科・帝王切開・小児の手術症例なども含めて万遍なく経験することができる。

医療系の教育施設も併設していることから、パラメディカルスタッフを含めたチーム医療の実践について学ぶ機会も多い。

社会医療法人 敬愛会 中頭病院 (以下, 中頭病院)

研修実施責任者:

上川 務恵 (麻醉)

専門研修指導医:

花城 亜子 (麻醉)

高橋 和成 (麻醉)

幾世橋美由紀 (麻醉)

専門医:

平田友里 (麻醉)

認定病院番号: 1007

特徴: 沖縄県中部地域の医療の中核をになう当院では、年間3019例の麻醉管理を行なっている。心臓外科、形成外科、産婦人科、脳外科をはじめ様々な外科系手術を行なっており、麻醉科研修に必要な症例を全て経験することが可能である。また救急部門も充実しており、外傷などの緊急手術症例を経験することができる。

株式会社麻生 飯塚病院（以下、飯塚病院）

研修実施責任者：

尾崎 実展（麻酔）

専門研修指導医：

小畑 勝義（麻酔、ペインクリニック）

田平 暢恵（麻酔）

小西 彩（麻酔）

内藤 智孝（麻酔）

専門医：

濱井 優輔（麻酔）

認定病院番号： 5 3 9

特徴：当院は救急救命センター、福岡総合周産期母子医療センターに認定されており、麻酔科は超未熟児を除くほとんどすべての緊急手術に対応している。また、地域がん診療連携拠点病院であり、幅広い悪性腫瘍の手術を行っているが、肝胆膵手術、肺手術の症例が特に豊富である。心身合併症センターを運営しており、精神疾患で周術期管理困難と思われる近隣患者の受け入れも行っている。開心術、TAVI、大動脈手術（開胸・開腹およびステント留置）、重症下肢虚血血行再建など心臓血管外科領域での幅広い手術を行っており、心臓血管麻酔専門医認定施設である。

福岡大学病院

研修プログラム統括責任者：

秋吉 浩三郎（麻酔）

専門研修指導医：

重松 研二（麻酔、集中治療）

原賀 勇壮（麻酔、緩和ケア）

柴田 志保（麻酔、ペインクリニック）

岩下 耕平（麻酔、集中治療）

佐藤 聖子（麻酔）

富永 健二（麻酔）

三股 亮介（麻酔）

大脇 涼子 (麻酔)
平井 規雅 (麻酔、ペインクリニック)
富永 将三 (麻酔)
十時 崇彰 (麻酔、集中治療)
南原 菜穂子 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：92

特徴：年間手術症例数は8,500例余り、そのうち約7,100症例を麻酔科が管理しています。脳死および生体肺移植術があること、心大血管手術や外傷手術が多いため、緊急手術の割合が高いことが特徴です。症例数が豊富であり、麻酔科専門研修プログラムに必要な症例はすべて経験することができます。麻酔管理では、超音波ガイド下の末梢神経ブロックを数多く行っており、術後の疼痛管理にも積極的に取り組んでいます。また、周術期管理センターを開設しており、周術期管理チームとして看護師・薬剤師・歯科衛生士・栄養士と連携し、全身状態の評価を入院前から行っています。外科系集中治療室は麻酔科医が主体となって運営されており、術後の全身管理を学ぶことが可能です。ペインクリニックでは急性痛・慢性痛に対する薬物療法や神経ブロックを経験できます。緩和ケアではチームの一員としてがん患者とその家族の身体的・精神的苦痛を和らげる支援をしています。その他、神経ブロックを始めとする各種講習会や研修会を定期的に開催しており、様々な資格・認定を取得することも可能です。

藤元総合病院(以下、藤元総合病院)

研修実施責任者:今林 徹

専門研修指導医:今林 徹(麻酔)

東 良子(麻酔)

梶 智彦(麻酔)

専門医：

廣田 智美(麻酔)

認定病院番号:1146

特徴:心臓血管外科手術、脳神経外科手術の症例が多い。

独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

研修実施責任者： 村島浩二

専門研修指導医： 芳野博臣 (麻酔科)

専門医： 松本恵 (麻酔科)

今井敬子（麻酔科）

土井拓（麻酔科）

認定病院番号： 257

特徴：九州病院は、北九州市西部を中心に、遠賀・中間地域や直方・鞍手地域の地方急性期医療を担っている。対象患者は超低出生体重児から超高齢者まで、さらにハイリスク妊婦、循環器や呼吸器系に重篤な合併症を抱えた患者など多岐にわたる症例が経験できる。特に小児循環器科では九州北部・山口から広域に患者を受け入れ、手術症例も多い。このため、先天性心疾患手術の多様さは当院の特色である。もちろん成人心疾患手術も多種にわたり、弁膜症や冠動脈バイパス手術、緊急・超緊急の急性大動脈解離や大動脈破裂など主な心臓血管麻酔が経験できる。また、地域周産期母子医療センターがあり、胎児診断を元に産婦人科、新生児科、麻酔科を含めた密度の濃いチーム医療と相互サポート体制で計画的に治療を行い、周産期の産科麻酔・新生児麻酔を研修可能である。ハイブリッド手術室が完備され、全身麻酔でのASD/PDAカテーテル閉鎖術や動脈瘤のステント手術も積極的に行われている。今後はTAVIを導入予定である。

専門研修連携施設B

地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院 （以下、福岡市民病院）

研修実施責任者：

崎村 正太郎（麻酔）

専門医：

河野 裕美（麻酔）

梅原 真澄（麻酔）

認定病院番号： 579

特徴：当院は福岡市の中心部に位置し、主に消化器・肝臓外科、整形外科（特に脊椎）の手術を中心に扱う病院です。その他にも血管外科や脳外科、透析患者を含めた全身状態に問題のある症例も多く、手術の際には呼吸器系や循環器系、中枢神経系など多角的な視点で病態をとらえ、安全で良質な全身麻酔管理を行うために必要な知識と技術を習得することが可能です。また術後鎮痛にも積極的に取り組んでいるため、硬膜外麻酔や神経ブロックについての研修もすることができます。

医療法人社団水光会宗像水光会総合病院（以下、宗像水光会病院）

研修実施責任者：

川崎 俊宏（麻酔）

認定病院番号： 9 1 0

特徴：麻酔科管理症例1,535症例中、約半数が脊髄くも膜下麻酔やCSEAであり、高齢者に対する手術が多い。人工心肺を使う心臓血管外科手術は46例のみであるが、末梢血管外科手術症例数も多く、リスクの高い患者に対する麻酔管理を学ぶことができる。脳神経外科は血管内手術が多くなっており、手術室外での麻酔も経験できる。全身麻酔は吸入麻酔を中心に使用しているが、脊髄くも膜下麻酔でのモルヒネや、術後疼痛管理のレパタンなど、様々な麻酔管理を経験することができる。

国家公務員共済組合連合会 千早病院（以下、千早病院）

研修実施責任者：

加治 淳子（麻酔）

認定病院番号： 9 0 2

特徴：当院では外科・整形外科・眼科の手術が年間 1100 例程度行われており、そのうち麻酔科管理症例が 600 例前後である。外科では腹腔鏡手術が主に行われており、整形外科では THA などの人工関節置換術に加え、骨折の手術などが多く行われている。福岡市の中で人口の多い東区に位置しており、高齢者の手術が多い。基本的な麻酔管理や麻酔手技を学ぶことができる。

国立病院機構 小倉医療センター（以下、小倉医療センター）

研修実施責任者：

趙 成三（麻酔）

認定病院番号： 6 0 5

特徴：地域周産期母子医療センターに指定されており、帝王切開術は300例以上行われています。小児外科は4名体制で、新生児を含む小児症例も増加しています。また、精神科病棟が50床あり、精神神経疾患を有する患者の手術も多く、レミフェンタ

ニルを用いたECTの麻酔管理も行っている。術後鎮痛に力を入れており、小児症例においても硬膜外麻酔や超音波ガイド下神経ブロックを積極的に取り入れています。

九州大学病院 別府病院

研修実施責任者：

岩松 有希子（麻酔）

認定病院番号： 1 6 4 3

特徴：当院は脊椎外科・外科に特化した病院で、年間 500 例以上の麻酔科管理症例があります。外科では、乳腺・消化器の一般的な麻酔管理が経験できます。また、脊椎外科ではヘルニアから側弯症まで多いときは 10 件/週ほどの手術をアクティブに行っており、高齢者・腹臥位・長時間といった麻酔管理を学ぶことができます。

社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 （以下、和白病院）

研修実施責任者：

富永 昌宗（麻酔）

専門研修指導医：

濱田 孝光（麻酔）

専門医：

藤井 高宏（麻酔）

岡澤 美菜（麻酔）

認定病院番号： 1 0 4 5

特徴：当院は、地域支援病院の指定を受け地域医療に貢献しさらに、高度急性期医療を目指している病院で、病床数は急性期病床 3 4 1 床、回復期リハビリテーション病棟 2 6 床の計 3 6 7 床である。定例手術はもとより、心臓血管外科、一般外科、脳神経外科、さらには外科系各科にまたがる重症外傷などの緊急手術が多いのが特徴である。6 歳未満の小児の症例は少ないものの、手術対象年齢は小児から高齢者まで、幅広い年齢層の手術が行われている。

社会福祉法人恩賜財団済生会 済生会唐津病院

研修実施責任者：

田中 宏幸（麻酔）

認定病院番号： 1 5 0 7

特徴：当院は唐津市周辺地域の急性期医療を担っている病院である。内科、循環器内科、外科、整形外科、脳外科などの診療科がある。193床の中規模病院である特性を生かし、地域に根ざした医療をチームワークよく行っている。麻酔科は主に、消化管外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、血管外科の手術の麻酔を行っている。手術を受ける患者は高齢者が多いため、さまざまな病気を合併している患者も多い。手術件数は多くないが、腹部外科手術（約300例）や呼吸器外科手術（約100例）、血管外科手術（約30例）の麻酔をひとつおき経験できる。診療科の垣根がなくチームワークよく手術室で働くことができる。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2020年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、九州大学病院麻酔科専門研修プログラム website, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

九州大学病院 麻酔科蘇生科 医局長 住江 誠

福岡県福岡市東区馬出 3-1-1

TEL 092-642-5714

E-mail masuika@kuaccm.med.kyushu-u.ac.jp

Website <https://www.kuaccm.med.kyushu-u.ac.jp/resident/program.html>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社

会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告

できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、国立病院機構九州医療センター、済生会福岡総合病院、飯塚病院、九州中央病院、福岡市立こども病院、福岡市民病院、福岡和白病院、聖マリア病院、国立病院機構小倉医療センター、浜の町病院、高木病院、中頭病院などが地域医療支援病院として含まれている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

各研修施設には十分な指導医と指導体制が整っているが、指導体制が十分でないと感じられた場合、専攻医は研修プログラム統括責任者に対して直接、文書、電子媒体などの手段によって報告することが可能である。研修プログラム統括責任者および管理委員会は、研修施設およびコースの変更、研修連携病院からの専門研修指導医の補充、専門研修指導医研修等を検討する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。